

琉球列島久米島沖より採集されたミツクリエナガチョウチンアンコウ (アンコウ目：ミツクリエナガチョウチンアンコウ科)

倉持 卓司*・須藤 裕介**・小川 麻里***
玉城 英信**・長沼 毅

広島大学大学院生物圏科学研究科，東広島市 739-8528

要 旨 深層水取水施設にはしばしば深海生物が迷入するので，深海生物研究の定点観測施設としての意義もある。このたび，深海魚の一種であるミツクリエナガチョウチンアンコウが沖縄県深層水研究所（久米島）で採取された。この深層水取水施設の取水口は久米島沖の東シナ海，水深 612 m にある。ミツクリエナガチョウチンアンコウの分布域にはまだ不明な点が多いが，本種が東シナ海にまで分布することが初めて分かったので報告する。

キーワード：ミツクリエナガチョウチンアンコウ，深海魚，深層水，東シナ海

緒 言

ミツクリエナガチョウチンアンコウ *Cryptopsara couesii* GILL, 1883 (箕作柄長提灯鮫鱈, triple-wart sea-devil) は，西北大西洋を模式産地として記載されたミツクリエナガチョウチンアンコウ科の一種で，漸深海層の代表的なネクトンとして (MARSHALL, 1979)，海洋表層～中層～深層の物質循環における一時的プールあるいは生物ポンプの役割を果たしていると考えられる。しかし，本種の生態に関する知見はごく散発的な報告に限られており，その分布域もまだ確信をもって論じられるほどではない。

このたび，本種の雌個体を琉球列島久米島沖の深層水取水施設より採集したので，本種の分布域に関する新知見として報告する。深層水施設では従来から“迷入生物”を採取・保管しており，深海生物の定点観測基地として分類・生態的な知見の蓄積に寄与している。なお，これまでの迷入生物として本種は記録されていない (高知県海洋深層水研究所，1998；林，2002；須藤ら，2002)。

材 料 と 方 法

本種雌個体は沖縄県海洋深層水研究所の取水ポンプのストレーナー（陸上施設）で，2003年4月28日に採取された。網目 10mm のストレーナーを通過できない生物はストレーナー前室に捕集されることになる。これを採取し，直ちに写真撮影し，体長・体重を測定した後，10%ホルマリン海水で固定した。なお，取水口は久米島東北沖 2.3km の海底（水深 612m）にあるので，本種の産地もほぼこの地点と考えてよい (Fig. 1)。

本種の同定は，ミツクリエナガチョウチンアンコウ科の類似種との詳細な比較により行った。

結果および考察

標本個体

ミツクリエナガチョウチンアンコウ *Cryptopsara couesii* GILL, 1883 (Fig. 2)

採集日：2003年4月28日

* 240-0103 神奈川県横須賀市佐島 3-11-30

** 沖縄県海洋深層水研究所 901-3104 沖縄県島尻郡久米島町字真謝 500-1

*** 深海生物談話会 739-8528 広島大学大学院生物圏科学研究科内

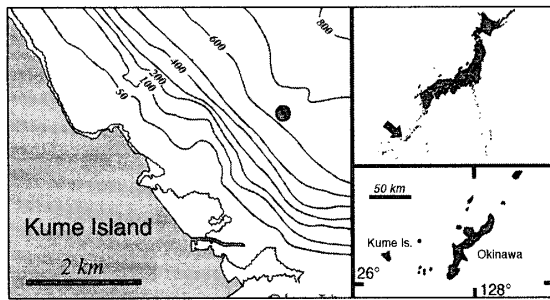


Fig. 1. Location of sample collection (closed circle).

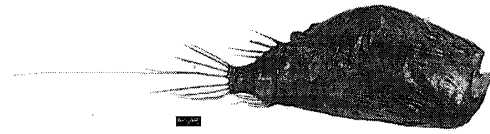


Fig. 2. Female of the ceratiid, *Cryptopsara couesii* GILL, 1883, from Kume Island. Snout-to-caudal fin length, 51.7 mm. Snout-to-fin ray length, 110.2mm. Scale bar, 0.5mm.

試料：雌 1 個体，吻端から鰭条端までの全長 110.2mm，体高 43.1mm，体幅 18.9mm

記載

体色は一様に黒色であり，口腔および鰓腔も黒色である。皮膚は密生するきわめて微小な棘でピロード状に覆われている。体はやや横長で側体性である。尾柄も側扁する。目は退化し小さい。肛門は臀鰭起部の直前にあり，背鰭は体のやや後方に位置する。しり鰭は背鰭よりもやや後ろに始まり，その基底長と高さは背鰭より短い。胸鰭は小さく鰓孔のすぐ上にあり，腹鰭はない。3 個の先端に孔をもつ洋梨型の肉質突起は背鰭起部の直前に位置し，中央の 1 個が最も大きく，その両脇にそれよりもやや小さい。1 個の卵形の肉質突起がある。背鰭は 4 軟条，臀鰭は 4 軟条である。尾鰭はよく発達し，最長の鰭条は 94.1mm にもなる。鰓孔は体のほぼ中央に位置する。口はほぼ垂直に開き，下顎は上顎より短く口を閉じた時上顎に含まれる。下顎縫合部の下面に三角形の骨突起がある。下顎の歯は前方で不明瞭な 2 列になり，後方では 1 列に並ぶ。内側の歯は長く牙状。上顎の歯は 2～3 列に並び，前方で大きくなる。蝶耳骨棘はない。鰓弓は平滑で鰓耙はない。擬鰓はない。誘因突起は短い。擬餌状体は基部を残し欠損しており先端の形態は不明である。

比較と同定

ミツクリエナガチョウチンアンコウ科の分類はまだ確定的ではないが，一般的な分類としては 2 属 4 種，すなわちピワアンコウ属 3 種とミツクリエナガチョウチンアンコウ属 1 種が知られている (PIETSCH, 1986)。このうち，分類規準が明確なピワアンコウ属 3 種ならびにミツクリエナガチョウチンアンコウと採集個体を詳細に比較検討したところ，本個体は以下の相違点からミツクリエナガチョウチンアンコウであると同定できた。ピワアンコウ *Ceratias hilboelli* KROYER, 1845 の雌は，体長 1m を越え，背中線に沿って並ぶ 2 個の肉質突起を持つことで他種と異なる。同様にエナシピワアンコウ *Ceratias uranoscopus* MURRAY, 1877 の雌も背中線に沿って並ぶ 2 個の肉質突起を持つことで異なる (PIETSCH, 1986; 中坊, 1993)。エナシピワアンコウは，これまでピワアンコウのシノニムと考えられていたが，PIETSCH (1986) は，多数の試料をもとに誘因突起先端の擬餌状体の先端に糸状皮弁がないことでピワアンコウと異なることを理由として種として認めている。また，*Ceratias tentaculatus* (NORMAN, 1930) は，誘因突起先端が二股に分かれ，その先端に擬餌状体をもつことで異なる。

ミツクリエナガチョウチンアンコウ科に *Phrynichthys* 属のクロツノアンコウ *Phrynichthys wedli* PIETSCHMANN を含む分類も提唱されているが，あまり一般的ではない。また，TANAKA (1908) が相模湾ヨドミより採取された個体をもとに記載した *Ceratias* (*Paraceratias*) *mitsukurii* TANAKA, 1908 はミツクリエナガチョウチンアンコウのシノニムである。

分布

本種は，63°N から 43°S までの間の水深 75～4000m より報告されている。日本近海においては九州ーパラオ海嶺，土佐湾，駿河湾，相模湾，秋田県沖，北海道の水深 450～710m より記録されている (IMAI, 1941; TANAKA, 1908; 中坊, 1993; 山川, 1982; PIETSCH, 1986) (Fig. 3)。今回採集された標本は東シナ海で最初の記

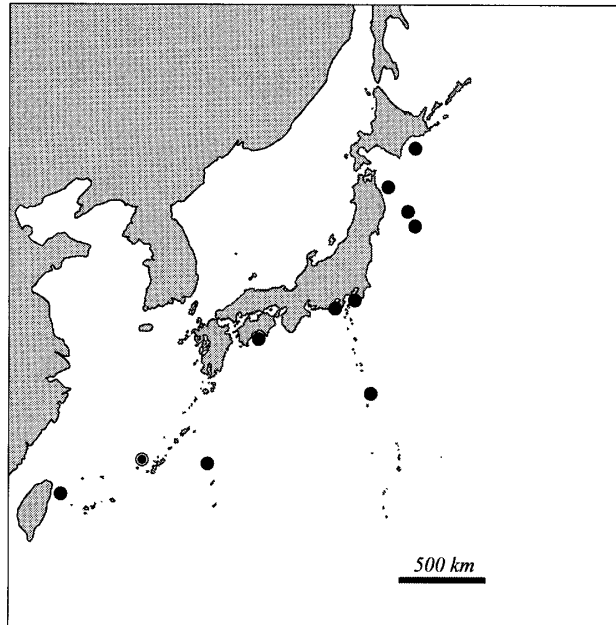


Fig. 3. Known distribution of the ceratiid, *Cryptopsara coesii* GILL, 1883, in Japanese coastal waters. The off-Kume Island area is marked by the double-circle.

録と考えられる。

謝 辞

本報告にあたり多くのご助言をいただいた葉山しおさい博物館の池田 等氏に感謝申し上げます。

引用文献

- 林 芳弘 (2002) : 室戸海洋深層水取水管における生物の迷入. 高知県海洋深層水研究所年報, 第5号, 112-120.
- IMAI, S. (1941): Seven new deep-sea fishes obtained in Sagami Sea and Suruga Bay. *Japan. J. Zool.*, 9 (14): 233-250.
- 高知県海洋深層水研究所 (1998) : 海洋深層水取水装置内から回収された生物. 高知県海洋深層水研究所年報, 第3号, 47-59.
- MARSHALL, N. B. (1979): *Developments in Deep-Sea Biology*. Blanford Press, Poole, UK.
- 中坊徹次 (1993) : ミツクリエナガチョウチンアンコウ科. 日本産魚類検索 全種の同定 (中坊徹次編), 東海大学出版会, 399.
- PIETSCH, T. W. (1986) : Systematic and distribution of bathypelagic anglerfishes of the Family Ceratiidae (Order: Lophiiformes). *Copeia*, 1986 (2): 479-495.
- 須藤裕介・玉城 誠・牧野清人・玉城英信・当真 武 (2002) : 取水ピットのスレーナーから回収した深海生物. 平成12年度研究業務報告 第1号, 沖縄県企画部海洋深層水研究所, 81-85.
- TANAKA, S. (1908) : Notes on some rare fishes of Japan, with description of two new genera and six new species. *J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo*, 23 (13): 18-24.
- 山川 武 (1982) : 九州-パラオ海嶺ならびに土佐湾の魚類. (日本水産資源保護協会), 198-199.

**Record of *Cryptopsara couesii* GILL (Lophiiformes: Ceratiidae)
from off-Kume Island, Ryukyu Islands, Western Japan**

Takashi KURAMOCHI*, Yusuke SUDOU**, Mari OGAWA***, Eishin TAMAKI**
and Takeshi NAGANUMA

*Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University, Kagamiyama,
Higashi-hiroshima, 739-8528, Japan*

Summary

Facilities for the utilization of deep-sea water often catch deep-sea organisms that stray actively or passively into the influx tubes, and thus provide the chances for long-term *in situ* collection. Recently, a female specimen of the ceratioid, *Cryptopsara couesii*, was collected at the Okinawa deep-sea water facility. The inlet has been placed off Kume Island at the water depth of 612 m in the Eastern China Sea. Information about the distribution of *C. couesii* is only limited, and this finding adds a new geographical record to be archived.

Key words: *Cryptopsara couesii* GILL, bathypelagic fish, deep-sea water, Eastern China Sea

* 3-11-30 Sajima, Yokosuka, Kanagawa, 240-0103, Japan

** Okinawa Prefectural Deep Sea Water Research Center, Kume-cho, Okinawa, 901-3104, Japan

*** Deep-Sea Biology Colloquium, Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University